

②ご意見の反映箇所一覧〔草津川跡地利用基本構想(案)に対して頂いたご意見を反映させた主な箇所および反映後の記述内容〕

	掲載ページ	当初記述	反映後の記述
1	55頁	<p>区間②から区間⑥において、東西のモビリティを高めるとともに、防災時にも利用できる環境にやさしい道づくりを進めます。具体的には、東西のモビリティ向上を目指しつつ、環境にも配慮した高機能舗装(騒音低減、水はね抑制)による2車線道路の整備や、光害に配慮した道路照明など環境にやさしい道の整備を目指します。</p>	<p>区間②から区間⑥において、東西のモビリティを高めるとともに、災害時の物資等の輸送が確保できるよう、交通機能の強化を図ります。整備に際しては、高機能舗装(騒音低減、水はね抑制)やカラー舗装、光害に配慮した照明などを取り入れ、環境や景観に配慮した道づくりを目指します。このうち区間⑤については、にぎわいや交流の拠点としての活用も踏まえながら、交通需要等を勘案し、交通機能が必要かどうかについても十分検討していきます。</p>
2	81頁	<p>また、広場整備によってスポーツ機能の充実を図る区間については、市民ニーズの把握を行ったうえで、今求められるスポーツ施設の導入について検討します。さらに、中心市街地に位置する区間では、「旧街道の歴史的街並みや草津川の渡し」などの歴史的な位置づけを踏まえた空間整備や、民間活力との連携によるオープンカフェ、セレクトショップの導入など、中心市街地の更なるにぎわいを演出する装置のひとつとして活用を推進します。一方、非市街地の区間については、貸し農園の導入など、沿川のまちづくりと連携した集客施設の導入を検討します。</p>	<p>また、広場整備によってスポーツ機能の充実を図る区間については、市民ニーズの把握を行ったうえで、今求められるスポーツ施設の導入について検討します。非市街地の区間については、貸し農園の導入など、沿川のまちづくりと連携した集客施設の導入を検討します。</p> <p>中心市街地におけるにぎわいなどの創出の検討 中心市街地に位置する区間では、「旧街道の歴史的街並みや草津川の渡し」などの歴史的な位置づけを踏まえた空間整備や、民間活力との連携によるオープンカフェ*、セレクトショップ*の導入など、中心市街地の更なるにぎわいを演出する方策のひとつとして活用を推進します。 区間⑤においては、中心市街地活性化の観点から、草津川跡地と周辺地域との連携や回遊性を向上させ、にぎわいの創出を考慮し、交通機能が必要かどうかについても、道路整備におけるメリット・デメリット等を整理し、市民にとって最善の整備形態となるように検討を進めます。</p>
3	85頁	<p>基本構想では、区間②～⑥において堤防上などに道路施設の導入を行います。この道路整備と連携して、適切な位置に草津川跡地へのアクセス路を確保し、これまでの地域分断の改善や市街地の連絡機能の向上を図ります。 堤防上の道路の整備形態については、自転車と歩道の分離のあり方について検討を深め、実現に向けて最も合理的な整備方法を検討します。 区間⑤において、将来整備予定である都市計画道路 宮町若竹線との交差点については、今後の設計段階において、両岸堤防の切り通しによる堤体や桜などへの影響、効果的な交差形態などに十分配慮した整備方法を検討していきます。 旧中山道に位置する草津川マンポについては、今後の設計段階において、現状維持か、あるいは拡幅等の機能強化を図るかについて、商店街や地域住民のみなさんの声を聞きながら検討していきます。 これらの道路整備については、プライバシー保護や騒音抑制など、沿道の生活環境に配慮した整備方法を検討します。</p>	<p>基本構想では、区間②～⑥において堤防上などに道路施設の導入を行います。道路施設は、東西のモビリティを高めるとともに、駐車場などの観光拠点を中心とした草津川跡地や中心市街地の回遊性を高める役割を担っています。また、災害時には避難場所や一時集合場所にアクセスするための重要な施設といえます。道路整備にあたっては、区間毎の土地利用基本方針、周辺の景観や環境などの特性を踏まえて、道路構造(位置・幅員・舗装など)や運用方法について検討します。 この道路整備と連携して、適切な位置に草津川跡地へのアクセス路を確保し、これまでの地域分断の改善や市街地の連絡機能の向上を図ります。これらの道路整備については、プライバシー保護や騒音抑制など、沿道の生活環境に配慮した整備方法を検討します。 堤防上の道路の整備形態については、自転車と歩道の分離のあり方について検討を深め、実現に向けて最も合理的な整備方法を検討します。 旧中山道に位置する草津川マンポについては現状維持か、あるいは拡幅等の機能強化を図るかについての検討を進めます。 また、将来整備予定である都市計画道路 宮町若竹線との交差点については、今後の設計段階において、両岸堤防の切り通しによる堤体や桜などへの影響、効果的な交差形態などに十分配慮した整備方法を検討していきます。 区間⑤は、にぎわいや交流の拠点としての活用が必要であることも踏まえながら、交通需要等も勘案して交通機能が必要かどうかについても、今後計画を進めていく際に住民の方々などに参画いただく会議等も開催し、市民にとって最善の整備形態となるよう検討を進めます。</p>